

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代を担う「英知」、自分も他者も大切にできる豊かな「人間性」、自由な発想で新しいことに取り組んでいこうとする「創造性」、社会に積極的に参画し貢献していける「社会性」を身につけた人間を育成する。そのため、教職員が協働して、一人ひとりの生徒にきめ細かな指導に当たり、自分の生き方を自分の意志と責任で切り拓く力を育む学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成（授業力向上）

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「授業力向上委員会」を中心に、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む。アクティブラーニングや ICT をテーマに研究をすすめ、各教科で研究授業を行う。

※生徒による授業評価における加重平均を 3.1 以上とする。

イ エリア・自由選択科目の選択をとおして、進路実現に対応できる学力を身につけさせる。

※普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリア学習満足度（平成 26 年度 70.3%）を毎年 2～3% 引き上げ、平成 29 年度には 78% にする。

2 意欲のある生徒の育成に向けた指導（生きる力の育成）

(1) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を再編成する。

ア キャリア教育の推進に向け、3年間を見通した計画への改善に取り組む。

※卒業時の進路未定者率 2% 台を維持する。

(2) 希望の進路実現に向けて具体的な支援を行う。

ア 各学年に進学担当を置き、補習・講習を中心として 3年間を見通した学力向上を進める。

※生徒向け学校教育自己診断の進路実現のための学力に関する項目における満足度（平成 26 年度 61.8%）を平成 29 年度には 70% にする。

イ 進路指導部に就職主担を置き、就職希望者に継続的な指導を行う。

※卒業時の就職内定率 100% を目標とする。

3 地域から信頼される安全で安心な学校づくり（生徒指導）

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 生徒が自らの行動を律することのできる人材となるよう、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の規律に関する項目における達成度を 90% 以上に維持する。

イ 学校全体で生徒指導に取り組む体制を再確認し、教員が共通理解をもとに同じ目標に向かって、生徒が納得のいく指導を行う。

※教職員向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目における達成度（平成 26 年度 60.0%）を平成 29 年度に 80% 以上にする。

ウ 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実し、必要な生徒に適切な支援・指導を行うことのできる体制を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成 26 年度 63.6%）を平成 29 年度には 75% にする

※保護者の生徒指導への満足度（平成 26 年度 67.6%）を平成 29 年度には 70% にする。

(2) クラスを集団の基本と考え、安心できる人間関係づくりの場を提供する。

ア クラス運営において、仲間作りを中心に据える。

※生徒向け学校教育自己診断の友人に関する項目における満足度（平成 26 年度 79.6%）を平成 29 年度には 85% 以上にする

(3) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※部活動加入率（平成 26 年度 59.7%）を毎年 2% 引き上げ、平成 29 年度には 66% にする。

(4) 保護者および地域との連携を密にする。（情報発信）

ア 広報紙および Web の活用

※保護者の学校との連携に関する満足度（平成 26 年度 66.9%）を平成 29 年度には 70% にする。

4 共に学びともに育つ教育の実践（共生推進教室）

(1) 障がいのある生徒の自立を支援し、多様性のある学校づくりに生かす。

ア 共生推進教室の運営を確立し、学校生活の中に位置づける。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（平成 26 年度 79.6%）を平成 29 年度には 85% 以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【教育課程・学習指導等】</p> <p>・「進路希望に応じて選べるエリアや選択科目が多い」と答えた生徒は 87.4%（前年比 1.2%増）と「進路実現のために必要な学力がついている」と答えた生徒は、63.8%（2.0%増）と平成 26 年度に引き続いて向上した。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・「学校の規則をきっちり守っている」と答えた生徒は、93.9%（2.3%増）と規律を守ることへの意識は高くなったが、保護</p>	<p>第 1 回（平成 27 年 6 月 29 日）</p> <p>・アクティブラーニングについて、一斉授業という教員主導の教え込みの場面が全く必要でないとは思わないが、生徒が主役という概念に結び付くような授業形態が受け入れられない教員がいる。大東市の中学校でも共同学習を授業改善の基本にしている。</p> <p>・家庭学習については、中学校では自分の課題を見つけて自学自習の意識をより持てるかということと家庭学習を捉えていかなければならない。また、家で勉強する雰囲気を作れない生徒もいるため、なかなか厳しい問題で、身につけていないというのが現状である。</p> <p>・共生推進教室ができたことで現れた変化は何か。障がいのある生徒以外にも、人間関係で</p>

府立緑風冠高等学校

者の生徒指導への満足度が 68.3% (0.7%増) と向上はしているが依然低い値で推移している。生徒が納得できる毅然とした指導について、今後とも保護者の理解と連携の充実を図っていききたい。

- ・生徒の「教職員は悩みや相談に親身に応じてくれる」は、69.0% (5.4%増) に向上した。教職員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は、49.2% (29.2%増) に向上した。今後も教育相談に関する教職員研修の充実に加え、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることが必要である。

【広報活動等】

- ・保護者の「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれている」は 65.7% (2.1%増) と向上した。また、学校行事に参加した保護者も 71.9% (4.3%増) と増加した。一方、「学校は、意思疎通を積極的に図っている」は、62.8% (4.1%減) と後退した。さらに保護者との連携を密にして、開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

【学校運営等】

- ・教職員の「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考えを明らかにしている」 25.3% (22.2%減)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」 34.9% (15.1%減) と低く、「職員会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」 41.2% (11.3%減)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」も 42.8% (9.7%減) と後退しており、学校運営全般について教職員間の意思統一を進める必要がある。

しんどい思いをしている子はたくさんいるので、友達作りと共生推進教室をフォーマットできる何かがあればいいのではないかな。

- ・自分とは違う人が一緒にいるということはメリットが大きい。よそではできない集団生活ができるのだから、そこでどのように人間性をお互いに磨いていけるのか、自分の考えではない考え方を受け入れることができるのか、授業以外のところでの人間の心の点にとっても大きな取り組みだと思う。

・担任から伝達しなければならぬことが、伝達しきれていないことがある。職員会議等で、どこまでを生徒に伝えるかなどを確認してほしい。

- ・全生徒が情報を持ち帰るのは理想だがそうでない場合もあるので、メールや通信手段も含めて、二重三重に保護者に伝える手段を設けてはどうか。

・普総選改編に向けて、緑風冠高校とともに生徒たちが選択肢に入れる学校の情報を参考に、どう差別化し、こちらの魅力をどう高めていくかというのを考える必要がある。

- ・たとえば、イメージ的に看護コースだと、少し専門的なことを教えてもらえるのかなど考える。受験対策だけなら何のために看護コースに行くのか不明で、それであれば普通科でも良いのではないかな。

・専任の先生の配置はないのか。入学して専任の先生がいないと、期待を裏切られた気持ちになるのではないかな。

- ・中学生は思いのほか子どもで、たとえば、体育コースとあれば体育がたくさんできて楽しいのかな、と単純に思ってしまう。逆に大人である我々でも何をしているかわからないコースには食いつきにくい。難しいとは思いますが、やはりイメージが湧くコースの方が良いのではないかな。

第2回 (平成 27 年 12 月 9 日)

・授業アンケートは独自の項目を設置し、授業の中で考える力を鍛えてくることができたか、友達同士との学びあいを用意してもらえたか等を取り入れてはどうか。教師側もこういう視点で授業のあり方を考えればいいのかということになる。

- ・アンケートでの授業評価は、生徒が先生と先生の授業をどう感じているのかということを表している。まじめに取り組んで考えた生徒もいれば、適当に好き嫌いを含めて書いているものもある。ひとつの指標にはなるが、あまりがんじがらめに捉える必要はない。数字だけにまどわされてしまう可能性がある。

・中学校では高校以上に、先生に対する意識で左右されてしまう。中学校では習状況調査というものが、項目はもっと具体的である。本当に教員の指導に活かそうと思ったら、別の切り口も必要かと思う。

- ・普総選改編に向けて、先生方がどのように考えているのか、教育活動にどのような思いをめぐらしているのか知りたい。先生方がどんな学校にしたいと思っているのか聞きたい。

(事務局の教員から考えを述べさせてもらった。)

・3年間はいろいろあるが、人と人との結びつきが大切だ。卒業して、堂々と胸張って緑風冠卒業生といえるようになってほしい。

- ・子どもたちは中学生のとき、自分の学力で高校を決めていく。入学当初は夢を持っていなかったが、エリアに入って自分で決めることができた生徒もいる。コースの内容をきちんと中学校側に伝えられたらいい。

第3回 (平成 28 年 2 月 29 日)

普通科総合選択制アンケート集計結果報告について

- ・女子生徒の方がエリアと進路との関係性が高いが、看護や保育、教育などのエリアが女子生徒の進路とつながっている結果ではないか。

・「発表する力」が他の項目に比べて少し低くなっている。大学や社会などで必要になるのは、自分からしっかりと発信できる能力をつけることである。

平成 28 年度 学校経営計画および学校評価 (案) について

- ・こういった学校経営計画表が出てきたのは最近。しなければならぬものであるが、文面に関しては校長や教頭で考え、こういう文面であるということ先生方が共有することが大切だと思う。

・めざすものに関して数字ではかれる部分もあるし、そうでない部分もある。それぞれの先生方が数字ではかれない部分について何をめざしているのか確認して、若い先生とベテランの先生の間でそのあたりを言語化して、具体的にどう実現していくのか先生方で共有していければよいのではないかな。

- ・数字を目的とするか手段とするかによって数字に対する姿勢が変わってくる。評価をただ受け身的に使うのではなくて、今の自分よりも上をめざすという捉え方もある。子育てとは違う、職業の専門性があるのではないかな。

・授業力の向上というのは一番の柱だと思うので、授業力向上委員会の充実化を期待したい。研究授業に関しても、私も一度拝見したい。

- ・今の社会情勢を見て、例えば今年から 18 歳以上が選挙権を持ち、高校生 3 年生は無関心ではいられない、性別不一致の話の中でジェンダーやそういった本当にデリケートな部分もあるが、そういう話がある意味先生方の立場と我々学校協議会委員と意見の交換ができればおもしろいと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「授業力向上委員会」の活用</p> <p>イ 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善の推進</p> <p>ウ 生徒の活動を重視した授業やICTを活用した授業改善の推進</p> <p>エ エリア・自由選択科目の選択をとおして、進路実現に対応できる学力を身につけさせる。</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教諭を中心に、教務部担当、教科代表による「授業力向上委員会」を置く。年2回の校内授業研究週間、生徒授業アンケートを実施し、授業改善を推進する。 とりわけ、経験の少ない教員の授業力向上に努める。 <p>ウ・全教科全科目で生徒の能動的な学習活動を取り入れた授業やICTを活用した授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前項について各教科で研究し、「授業力向上委員会」で課題把握と成果検証を行い、全教員で情報共有する。 <p>エ・きめ細やかな進路に対応できるように、エリアのガイダンスを行う。</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価における加重平均(平成26年度3.08)を3.1以上とする。 年2回公開授業及び研究協議の実施。 <p>ウ・生徒授業アンケートの生徒意識の項目で、全教員の加重平均を3.0以上にする。</p> <p>エ・普通科総合選択制アンケートにおけるエリア学習満足度(平成25年度67.0%)を70%にする。</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒授業アンケートにおける全教員の加重平均は3.06であった。次年度も興味関心の持てる授業づくりに向けて、学力向上委員会を活用して全体的な授業力の向上をめざす。(△) 公開授業週間を6月と11月に実施、各教科ごとに研究授業を実施した。(○) <p>ウ・生徒授業アンケートの生徒意識の項目で、全教員の加重平均2.98。(△)。</p> <p>エ・普通科総合選択制アンケートにおけるエリア学習満足度75.7%。(◎)</p>
2 意欲のある生徒の育成に向けた指導	<p>(1)「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を再編する。</p> <p>ア キャリア教育の推進に向け、3年間を見通した計画への改善に取り組む。</p> <p>(2)希望の進路実現に向けて具体的な支援を行う。</p> <p>イ 各学年に進学担当を置き、補習・講習を中心として3年間を見通した学力向上を進める。</p> <p>ウ 進路指導部に就職主担を置き、就職希望者に継続的な指導を行う。</p>	<p>ア・これまでの実践を踏まえながら、3年間を見通したスタッフの内容を再検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の「仕事しらべ学習」を継続するとともに、基礎学力検査を実施する。 2年生のオープンキャンパスへの参加、「看護師一日体験」への参加を継続する。 <p>イ・各学年の進学担当を中心として、卒業までの学力向上の道筋を検討する。</p> <p>ウ・3年生の進路別講座を開講し、とくに就職希望者には「就職ゼミ」を設け、職業意識の確立とコミュニケーション能力の向上に力点をおいた指導を継続する。</p>	<p>ア・普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリアガイダンス満足度(平成26年度75.7%)を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時の進路未定者率(平成26年3月末2.8%)維持する。 <p>イ・進学希望者への組織的な補習、講習等を実施し、外部模試の受験者数を今年度より増やす。</p> <p>ウ・卒業時の就職内定率3月末100%を達成する。</p>	<p>ア・普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリアガイダンス満足度67.4%であった。次年度の1年生に対してさらに詳しい説明を実施する(△)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時の進路未定者率2.2%(○)。 <p>イ・進学希望者への補習および講習会を各学年ごとに実施できた。外部模試の受験者数が昨年度より約20%増加した。(○)</p> <p>ウ・11月までに就職斡旋希望者全員の内定が決まった。(◎)</p>

府立緑風冠高等学校

<p>3 地域から信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)生徒の規範意識を醸成するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。</p> <p>ア 生徒が遅刻しない学校づくり</p> <p>イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成</p> <p>ウ 生徒理解を深め、教員が一枚岩となった指導</p> <p>エ 個に応じた支援体制と教育相談体制の充実</p> <p>(2)クラスを人間関係づくり、安心できる場とする。</p> <p>オ 仲間作りのクラス運営</p> <p>(3)特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上</p> <p>カ 部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>キ 生徒の学校行事への参加意欲向上に向けた取組みの推進</p> <p>(4)保護者および地域との連携を密にする。</p> <p>ク 広報紙およびWebの活用</p>	<p>ア・教員による登校時の校門立番を継続する。</p> <p>イ・教員による登下校時の自転車マナー指導を実施し、「ルールからマナーへ」を合言葉に、さらに生徒の規範意識を高める。 ・薬物乱用防止教室を継続して実施する。</p> <p>ウ・生徒状況の理解と生徒指導に向けて教職員の共通理解を図る。</p> <p>エ・要支援生徒について、担任、支援教育コーディネーター、生徒相談委員会、養護教諭等が十分に情報共有をし、必要に応じて個別指導計画をつくり、スクールカウンセラー、外部機関と連携しながら支援する。中退率のさらなる減少に努める。</p> <p>オ・大阪府教育センターの仲間作り研修の受講者から伝達講習を行う。</p> <p>カ・部活動の様子を、学校Webページ等で積極的に発信し、あらゆる機会をとらえて部活動を顕彰する。 ・中学生向け学校説明会において、体験入部を実施する。 ・複数の部活動で中学校との交流を行う。</p> <p>キ・生徒会活動を活性化し、体育大会、文化祭への参加意欲を高める。 ・生徒保健委員の部活動安全講習会、保健研究発表大会での発表を継続する。</p> <p>ク 学校HPを刷新する</p>	<p>ア・遅刻総数を前年度より10%減らす。</p> <p>イ・近隣からの自転車マナーに関する苦情件数(平成26年度6件を前年度より減らす。</p> <p>ウ・生徒指導の共通理解と実践に向けて教職員研修・事例研究を複数回行う。</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成26年度63.6%)を65%にする。</p> <p>オ・生徒向け学校教育自己診断における友人に関する意識(平成26年度79.6%)を80%以上にする。</p> <p>カ・部活動加入率(平成26年度59.7%)を60%にする。 ・中学生向け学校説明会参加者を前年度より10%増加させる。</p> <p>キ・生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動への参加意識(平成26年度55.8%)を60%以上にする。</p> <p>ク・学校HPを週に1～2回更新する ・緑風だよりを各学期発行する</p>	<p>ア・遅刻総数は今年度は1578で、前年度より10%増加した。次年度も粘り強い指導を継続する。(△)</p> <p>イ・自転車のマナーについての苦情が減らなかった。自転車事故で被害者、加害者となることもあるので、来年度の重点課題とする。(○)</p> <p>ウ・1、2学期に実施できなかった。経験の少ない教員の割合も増えてきたので来年度も実施する。(×)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度が69.0%(5.4%増)と向上した。生徒自身が教育相談を積極的に有効活用できるよう、さらに啓発に努めたい。(○)</p> <p>オ・生徒向け学校教育自己診断における友人に関する意識83.3%(3.7%増)と向上した。次年度もクラスを中心とした仲間作りを推進する。(○)</p> <p>カ・部活動加入率は58.4%(1.3%減)。次年度についても現在の取組みを継続する。(△) ・演劇部が全国大会で優秀賞を受賞し、大東市長より文化表彰を受けた。(◎) ・中学生向け学校説明会参加者が前年度より10%以上増加した。次年度もさらなる充実をめざして取り組みたい。(○)</p> <p>キ・生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動への参加意識が57.3%(1.5%増)と向上した。学校行事への参加意識についても85.0%に向上した。次年度も生徒の自主的な活動について推進していく。(○)</p> <p>ク・学校HPを刷新し、週に平均3回以上更新した。今後もHPを通して情報発信を強化する。(○) ・「緑風通信」を各学期2回以上発行し、学校HPで掲載した。(○)</p>
<p>4 共に学びともに育つ教育の実践</p>	<p>(1)障がいのある生徒の自立を支援し、多様性のある学校づくりに生かす。</p> <p>ア 共生推進教室の運営を確立し、学校生活の中に位置づける。</p>	<p>ア・平成28年度に向けて共生推進教室の組織と運営を確立する。</p>	<p>ア・共生推進教室委員会を毎週開催し、諸課題について検討する。</p>	<p>ア・共生推進委員会を毎月開催し、諸課題について検討し、必要に応じて職員会議等で共有した。むらの高等支援学校と常に連携をとり組織的に対応するようにした。(○)</p>